



## 静岡市自転車道ネットワーク整備計画について

1. 静岡市自転車道ネットワーク整備計画の概要
2. モデル地区の概要
3. 本年度整備箇所の紹介

静岡市 建設局 道路部  
道路保全課 鈴木 亘

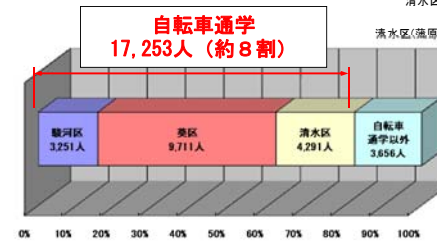
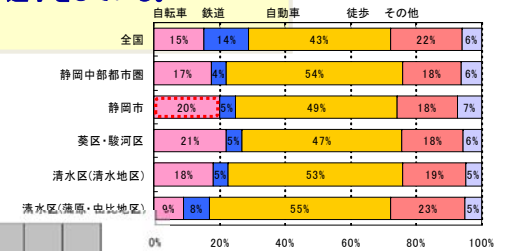
1

## 自転車を取り巻く状況 —静岡市—

1 自転車道NW整備計画

### ■近年、自転車利用ニーズが高くなっている

- ・自転車の保有台数は、昭和45年の約2倍（平成19年、県）
- ・代表交通手段における自転車利用割合が高い（全国平均：15% 静岡市：20%）
- ・静岡市内の高校生の約8割が自転車通学をしている。



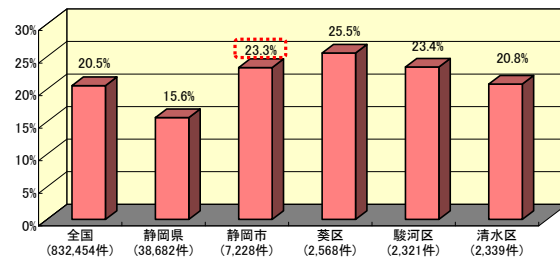
2

## 自転車を取り巻く状況 —静岡市—

1 自転車道NW整備計画

### ■自転車事故が多く発生している

- ・静岡市内で発生している自転車事故は、全事故の約23%を占めており、全国と比較して高い割合



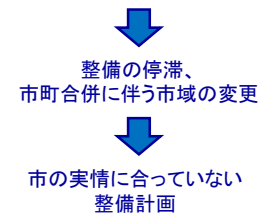
自転車事故の占める割合（平成19年）

3

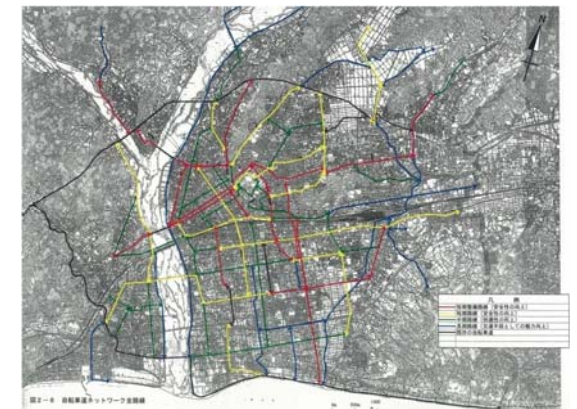
## これまでの取り組み

1 自転車道NW整備計画

平成13年度 自転車道ネットワーク整備計画(旧静岡市)策定

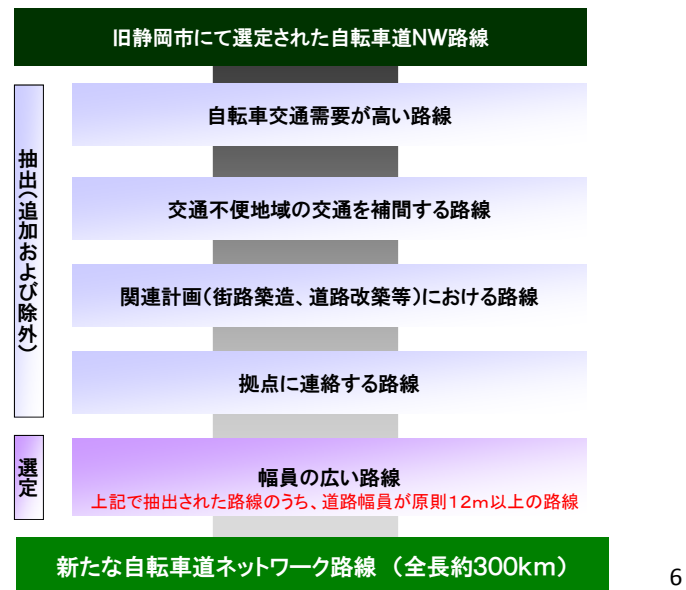
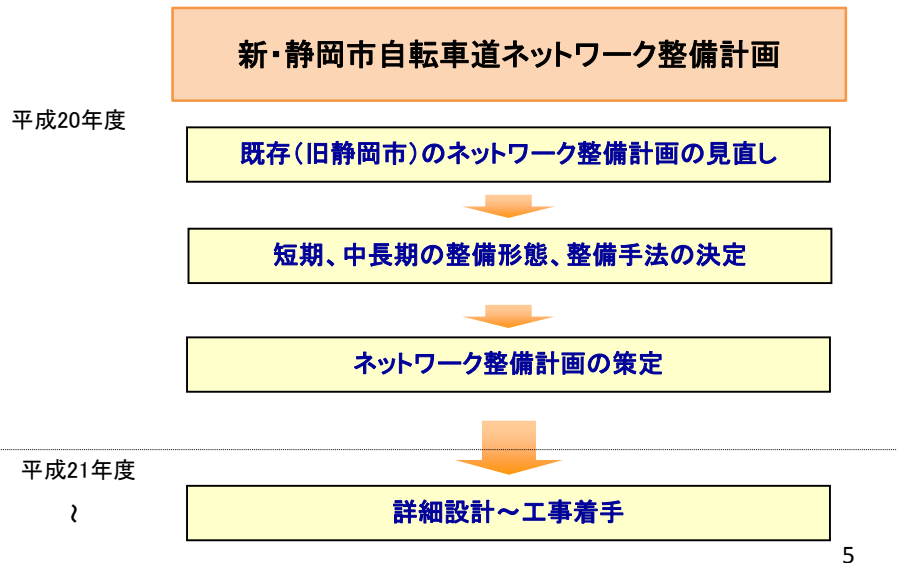


整備例：新川一丁目中原3号線  
(カラー化等による車道部との分離明確化)



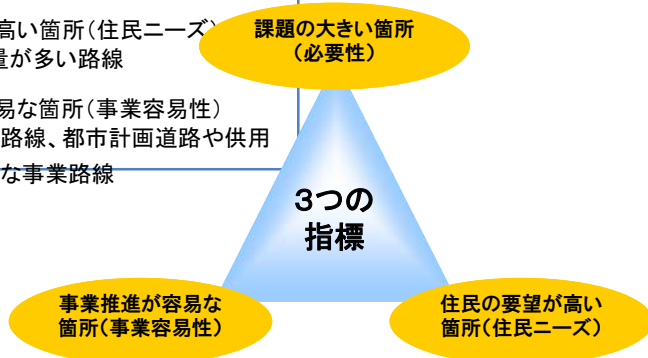
自転車道ネットワーク実施計画図(平成13年6月)

4

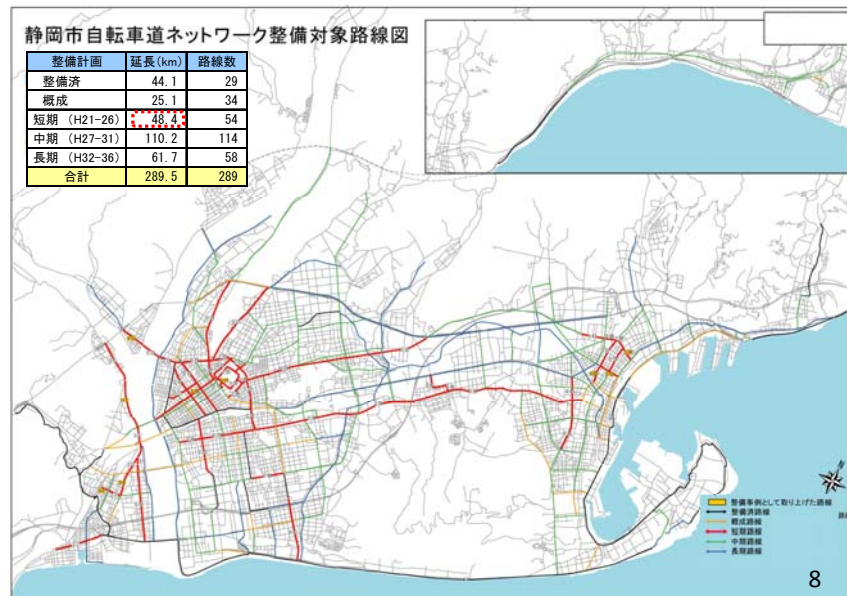


【自転車道ネットワークの優先順位を決定する3つの指標】

- ①課題の大きい箇所(必要性)  
→安全性に問題のある路線
- ②住民の要望が高い箇所(住民ニーズ)  
→自転車交通量が多い路線
- ③事業推進が容易な箇所(事業容易性)  
→幅員の広い路線、都市計画道路や供用  
予定が明確な事業路線

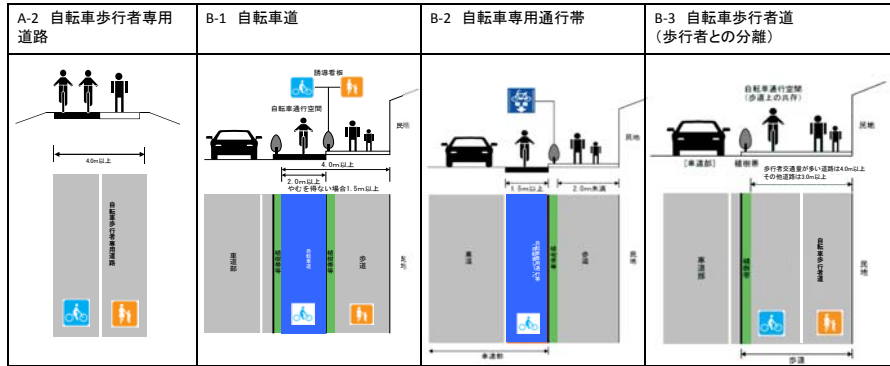


短期整備路線 約50km



# 自転車走行空間の整備形態の計画

1 自転車道NW整備計画



自転車走行空間の整備形態タイプ(抜粋)

## 整備形態の考え方

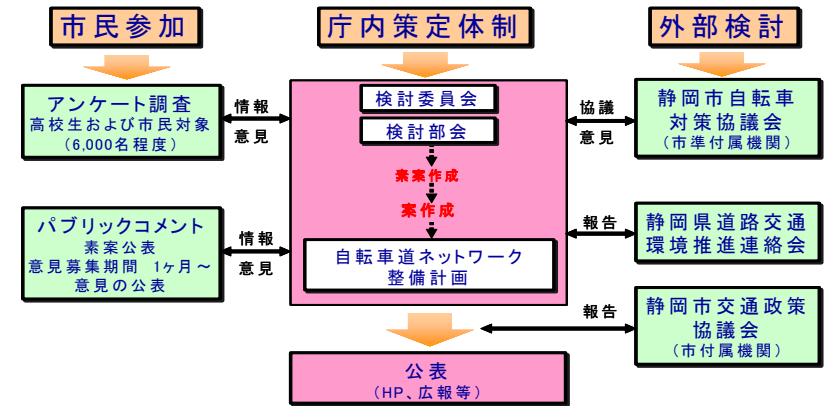
既存の道路空間活用による自転車走行空間の確保

→ 低コストで現実的な整備を実施

# 静岡市自転車道ネットワーク整備計画 策定体制

1 自転車道NW整備計画

## 策定体制

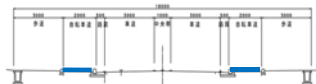


## 平成21年度 整備事例

市道丸子新田広野三丁目線(駿河区 東新田・みずほ一丁目)



計画標準断面図



整備前



整備後

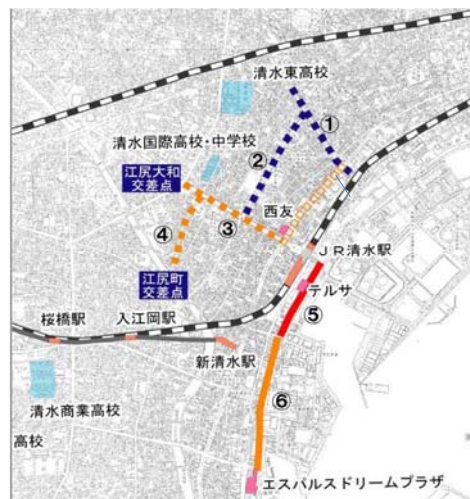
## 2. モデル地区の概要





## 2-1 清水駅前地区自転車通行環境整備モデル地区

自転車通行環境整備モデル地区を清水駅前地区に選定(H19)



- ①(市)辻町北脇1号線  
自転車レーン(1.5m) L=600m
- ②(市)袖師村松線  
自転車レーン(1.5m) L=700m
- ③国道1号  
自転車歩行者道 L=600m
- ④(市)小芝町江尻町線  
路肩カラー化 L=500m
- ⑤、⑥(市)新港町1号線・(市)島崎町  
新港町線・(市)島崎町袖師町線  
自転車道に準ずる構造等 L=1300m

自転車走行環境整備モデル地区選定箇所

## 2-1 清水駅前地区自転車通行環境整備モデル地区

自転車通行環境整備「清水駅前地区」ワーキンググループ

### スケジュール

組織

自治会、自転車愛好家、老人クラブ、女性の会、母の会、高等学校校外補導連絡協議会、交通指導員会、警察、国交省、市



第2回ワーキンググループ

第1回WG(7月)

- 開催趣旨の説明
- 現状の課題検討方法の説明
- (現地確認依頼)

第2回WG(8月)

- 現状の課題を整理、検討
- 現地確認結果の発表

第3回WG(9月)

- 整備の方針検討、決定
- 実証実験の方法検討、決定

第4回WG(12月)

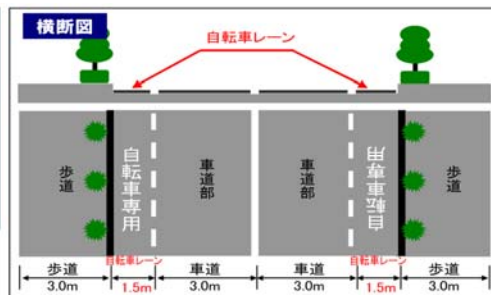
- 実証実験
- 実験結果の検証
- 整備内容の検討、決定

## 実証実験の内容

2-1 清水駅前地区自転車通行環境整備モデル地区

### 【実証実験の目的】

自転車通行の安全な利用促進を図り、自動車・自転車・歩行者のそれぞれが共存できる安全な自転車通行空間の創出可能性を検討することを目的とし、自転車通行環境整備に向けた実証実験を行った。

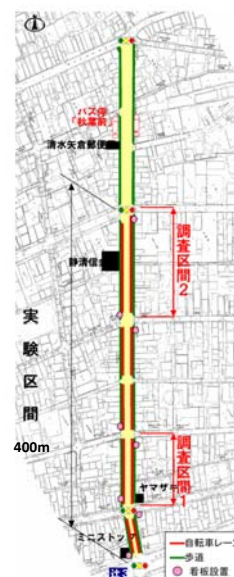


- 実施期間  
平成20年11月17日(月)～26日(水)
- 実施内容  
自転車レーンの設置  
(自転車の走行位置を明示)
- 影響把握方法  
・アンケート調査の実施  
実施区間でのヒアリングアンケート調査および自治会へのアンケート票配布調査  
・交通量調査の実施  
実施区間の2箇所における断面交通量の調査を実施

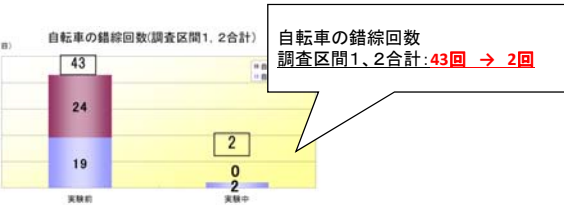


## 実証実験の結果

2-1 清水駅前地区自転車通行環境整備モデル地区



交通状況の変化における自転車の車道歩行割合  
調査区間1: 36% → 63% 調査区間2: 20% → 44%



一定の効果を確認

交通実態調査区間位置

## モデル地区の整備事例

2-1 清水駅前地区自転車通行環境整備モデル地区

(市)袖師村松線

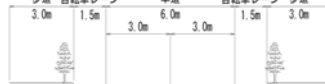
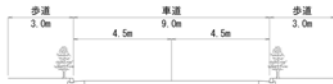
自転車レーン設置(1.5m)

L=700m

整備前



整備後



全景



## 3. 本年度整備箇所を紹介



## 平成22年度整備箇所

(一) 藤枝静岡線ほか6路線

約4kmにおいて 自転車レーンや路面標示等を設置し、自転車走行空間整備を実施



自転車通行量 5,700台/12h



自転車通行量 1,400台/12h

(一) 藤枝静岡線 整備イメージ



交差点内に自転車誘導帯を設置





(一) 藤枝静岡線 整備イメージ

自転車横断帯を廃止し、横断歩道を移動

H22.5.7静岡新聞(朝刊)



## おわりに

### 今後の展開

- ・ 整備効果の検証により、市民の理解を得て、自転車利用環境の整備を戦略的に実施する
- ・ 公安委員会など関係機関と活発な意見交換をし、自転車利用ルールやマナーを徹底する